

国語（３年）授業について

○研究協議での総合意見（本校教員）

- ・授業するにもＩＣＴを活用するにも、授業規律がまず大切になることが確認できた。教師と生徒との信頼関係が授業の大前提となる。今回の授業では、その信頼関係がみごとに発揮され、協力的な雰囲気の中で授業が展開できたことが一番の成果である。
- ・プレゼンでは、よくできているもの(モデルとなるもの)を提示して、全員で共有できればよかった。
- ・準備したこと以外の答えも、しっかりフォローしていくことが大切である。
- ・ＩＣＴ機器を活用する能力と、自分の考えをまとめる能力、時間の折り合いをつけるのが難しい。
- ・今回の活動はかなり発展的な活動なので、生徒の実態が伴っていないと難しい面もあったが、生徒はみんなよく頑張っていた。３年生の成長ぶりがうかがえる。

○参加者の意見（他校の先生より抜粋）

- ・和歌の比較、アプリの活用、交流の仕方など参考になりました。
- ・中学校のＩＣＴ機器の使い方のレベルの高さにびっくりしています。授業についても濃い内容だと感じました。多くの生徒が意見をどんどん発言していて、班でのプレゼンのまとめがスムーズにできており、羨ましく感じました。教員のまとめの時間が欲しいなと思いました。
- ・交流の時間が、写すだけでもったいないと思いました。もっと、同感や反論があってもいいと思いました。授業の振り返りに生徒がどのように書くのか気になりました。
- ・相違点を指摘させることが中心となる学習活動になるのですが、比較の観点が明確に示されれば、グループ討議が更に充実すると思われました。
- ・古今調と新古今調の特徴の違いが明確な５・６班担当の二首の組み合わせは大変面白いと思いました。
- ・いわゆるポスターセッションの形式でシェアさせるということですね。ならば、ペーパーでやった方が一覧性もあり、効果的だったのでは。
- ・教科書の歌をテーマで比較するのは、おもしろい。
- ・叶わぬ恋とか、静けさや爽やかさを感じるとか、一步踏み込んだ読み取りができていると思いました。
- ・学び合いの学習グループ４人というのが協働学習で理想的な数である。男女各２名のクロス配置で男女の情報交流を活性化したい。
- ・学習目標が、黒板に常に表示されているのがよい。生徒の学習ポイントがめあてとして表示され確認しながら展開できるとなおよい。

美術（１年）授業について

○研究協議での総合意見（本校教員）

- ・生徒が指示通り動いていた。日頃の指導が活かしている授業だった。全体イメージを考えられる現代っ子はすごい。はっきり描いている作品は絵の連続性が分かりやすいが、薄い作品は四角が並んでいる状態になっていたところが少し残念。
- ・授業での丁寧な指示が勉強になった。ＴＰＣの良さがでる授業だった。生徒の交流での使い方が素晴らしかった。
- ・作業の楽しさと、ＴＰＣの楽しさの両方があり、デザインの変更がしやすい点が興味をひいた。写真を撮り終わったら座るので作業の終わっている度合いがわかりやすい。
- ・現代の美術の授業にびっくりした。ＴＰＣで考えを深めたり、共有したりすることができる。ＴＰＣを使うことで飽きない。ＴＰＣが使えない時に生徒をどうのせるかも考えていかなければならない。自分も使っていかなければいけないと思った。
- ・あきのこない授業ができた。得意、不得意が分かれるが、どちらの生徒もついてこられるように、思考させるように工夫できた。得意な生徒の時間が余らないように協働学習を取り入れた点は、授業デザインにおいて大切である。

○参加者の意見（他校の先生より抜粋）

- ・授業開始時のあいさつが素晴らしい。本時の目標が明示されており何をするのかはよく分かるが、少し難しい。もう少し具体的なものであれば生徒も分かりやすい。説明の仕方が明確であり言葉遣い、声量とも適切で分かりやすい。生徒一人ひとりに目を配りながら丁寧に説明されており、教師の伝えたいという熱意が伝わってくる。
- ・全員が教師の顔を注目して説明を聞き、発問に対しても多くの生徒が自主的に手を挙げて発表する姿がとても素晴らしい。生徒と教師の信頼関係がうかがえる。
- ・作業の時間を板書しておく、授業の流れが分かって安心感を与えられると思う。振り返りと目標の達成度の確認時間が十分に取れなかったところが残念でした。
- ・ＴＰＣを効果的に活用して、とても楽しそうにデザインされていて、生徒の満足度も高い授業ではないのかなと感じました。
- ・同じ模様を繰り返し用いるデザインの学習には本当に効果的で、短時間で個々のオリジナルデザインを全体で共有できることも画期的である。
- ・ＴＰＣを使用することで、現在主流のグラフィックデザイン加工を体験できる場となっていた。タオルのデザイン要素「単純性」「平面化」「連続性」について考えデザインする学習テーマにマッチした活用法であると感じた。生徒はオリジナルデザインに集中して取り組んでいた。
- ・ＴＰＣを使用する前に、授業者が学習のポイントやテーマについて確認したことで、ＩＣＴ機器の学習効果を高める道具としての利用が可能となっている。ＴＰＣを使うことが目的になっていないのがよい。

英語（３年）授業について

○研究協議での総合意見（本校教員）

- ・楽しく活動できる授業になった。
- ・進出文型をもっと丁寧に指導した方がよかった。TPCでカラーの資料を使ったことが、白黒の配付資料よりは興味をひきやすく、生徒の意欲が高まった。
- ・復習を兼ねて主格との違いを出すといいかも。進出文型をまとめて残しておく。
- ・TPCと学力向上について→辞書機能、英語のタイピング メールなどに英文を打つ体験が必要。普段の授業の積み重ねがリスニングにつながる。
- ・楽しそうな表情、集中して取り組んでいる。飽きない授業構成ができている。
- ・見るだけのものは、紙ではなくてTPC。紙の節約にもなる。
- ・苦手な生徒、できない生徒への手立てについて→今日の授業はどの生徒もついていけた。細やかな声かけ、褒めることが大切。
- ・問題のレベルを選択させたり、英語での説明を日本語で補う必要もある。（低学力の生徒への配慮）
- ・スモールステップでできる部分を伸ばすこと。各自の目標を決めて達成感を味わわせる。授業規律とルール工夫が大切であるが、生徒はしっかり意識して授業に参加していた。

○参加者の意見（他校の先生より抜粋）

- ・ウォームアップのQ&Aでは既習の様々な表現を用いてテンポよく復習ができていました。生徒も積極的に取り組めており活用の中で定着が図られていました。
- ・新出文型を用いたコミュニケーション活動のワークシートも学年に応じたものに工夫されていました。活動前の文型練習を生徒のリピートがあれば良かった、また、学年が上がるにつれて声が出にくくなる傾向にあるので、声を出させる場面の設定が必要になると思いました。生徒が落ち着いた雰囲気の前向きな様子で日頃の先生との信頼関係がうかがえました。
- ・クラス全体がお互いを見守るような雰囲気があり、日ごろからその土壌を作られていると感じました。
- ・英語での発問に対して、生徒が積極的に挙手して答えていて、意欲を引き出す工夫を感じました。集中させる時は教室がしんとなって先生の声を聴き、メリハリがありました。黒板と電子黒板の使い分けも、それぞれの特徴を活かしているように思います。言葉を使ったゲーム形式の活動が、単にゲームを楽しんで終わるのではなく、本時の目標「ものについて詳しく説明する言い方ができるようになる」に繋がっていました。
- ・既習文法を自然な形でオーラルで確認できる点が素晴らしいです。
- ・基本例文をさまざまな技能を通して何度も確認されている点も素晴らしいです。技能統合が非常に意識された授業構成ですね。

ふりかえりと今後の課題

- どんな授業形態・授業デザインをするにも、大前提は、落ち着いた学習環境、生徒と教師の信頼関係、そして生徒の学習意欲が必要となる。このことを念頭に置いて日々の授業実践に励んでいきたい。
- T P C と I W B の組み合わせによって、新見市では生徒と教師の双方向での授業ができることを推奨している。そのためには、I C T 機器の使用だけでなく、小グループでの学び合い学習（協働学習）を重視して、生徒同士が考えを共有し、思考が深まるような授業デザインが特に大切である。教室での生徒の席についても、学校としての意図をもって考えていくことも必要である。
- I C T 機器が導入されて1年が過ぎた。「まずは使ってみる」の段階から、「効果的な使用場面はどこか」に重点を置いて研修を進める必要がある。
- 校内研修だけではなく、積極的に他校での研究会や授業実践を見学し、よいものはどんどん取り入れていく姿勢を持っていきたい。
- 今回の研修会を通して、本校生徒の学習意欲の高まりと、授業規律の定着、互いの信頼関係づくりがしっかりできていることが再確認された。生徒のみなさんには感謝したい。